

調べてガッテン日本語の「はい」

シャポヴァーロヴァ スヴェトラーナ (ロシア)

世界にはたくさんの言語があります。どこの国にもかならず「はい」という言葉があります。英語には YES、ロシア語には「ДА」、イタリア語やスペイン語は「SI」、ドイツ語では「JA」というように「はい」をあらわす言葉があります。

さて、私の家のできごとですが、夫にゴミ出しを頼んだら「はい はい はい」と言いながら動きません。黙ってテレビを見ています。また、夫の机の上はいつもおもちゃ箱のようにごちゃごちゃちらかっています。「片付けて」と言うたびに「はい はい」と返事はいいのですがいつまで経っても片付けずもっと散らかっています。

ロシアでは「はい、はい」を2回言うのは、すぐします、必ずしますの意味です。私は夫にたいして後だしじゃんけんみたいに「ずるーい」とか「裏切り者」とかと思っていました。でも、もしかして日本語の「はい」には違う意味があるのかもしれないと疑いだしました。

そこで日本語の「はい」の謎を解き明かす方法として、インタビュー式のアンケートをしました。日本人21人、外国人35人の計56の方が協力してくださいました。その目的は「はい」の使い方が外国人と日本人と同じかどうか、もし、違うとしたらどう違うかということを知りたかったからです。

最初の質問は、「はい」はどんな時使いますか。日本人は名前を呼ばれた時「はい」と返事をしますが、外国人は「ここにいます」「なにか御用ですか」と言って、「はい」は使いません。また、外国人のほとんどが使わない「はい」がありました。話している時や、電話を掛けている時の相槌です。日本では「はい、はい」と相槌を打つことが「ちゃんと聞いています」のサインですが、外国人には「聞いていない」「失礼だ」とぜんぜん違う意味でした。しかし、私がだまって聞いていると、相手は「日本語がわかりますか」「聞こえますか」と言われるので、今は私も「はい」「はい」と言うようになりました。

その他、宴会の時「はいっ、はいっ、はいっ」と場を盛り上げる有効手段だと言う貴重な回答もありました。

二つ目の質問は、日本人の「はい」で困ったことがありますか。この質問について外国人回答者は、「日本人と話しているとき『はい はい』というので途中まで「YES」だと思っていました。でも、最後に結論が「NO」だとわかって困ったことがあります。」とのことでした。私も同じような経験をしました。

こんな複雑な「はい」その正体は何でしょうか。

日本語の「はい」は日本語と言う大海原を渡る会話のナビゲーター(案内人)だと思います。身近にあるカーナビに例えてみましょう。

カーナビは自分の行きたい所をクリックすると矢印が出て、連れて行ってくれます。とても便利ですよ。 「はい」にもカーナビと同じ便利さがあります。何か言われたら「はい」と言って、矢印ならぬみんなの後ろについていくと、良いことばかり起こります。日本語を習い始めた頃は、よくこの「はい」のお世話になりました。

次にカーナビの特徴は、もし道路が渋滞していたら、「こっちへ行きなさい。遠回りになるけどいい道がありますよ」と迂回路を教えてくれることです。

夫が「はい はい」と言いながらそれをやってくれないのは「いやだ」と言ったら私の心が傷つくので、直進せず迂回しているのだと気付きました。夫は裏切り者ではなかったのです。

ちょっと視点を変えてみましょう。日本ではこの世と未知のあの世をつなぐ「送り人」が話題になっています。「はい」「はい」の連発は、知っている情報から未知の情報へみちびく「送り人」ならぬ「おくり言葉」ではないでしょうか。この「はい」があつてこそ、まだ知らない情報をもらう事ができるのです。

アンケートに協力して下さった多くの皆さん、ありがとうございました。「はい」のミステリーが解けなければ、私が日本へ来たときからもっていた、日本人はいつも「はい はい」と言うのに、やる事が違うので「正直じゃない」という印象で終わってしまったでしょう。しかし、「はい」には日本人の思い遣りや、それを育んだ文化も映し出していることが分かりました。この調査のおかげで、合点がいきました。